

## 豪・ウーロンゴン大学と国際交流協定結ぶ

専修大学は、オーストラリアのウーロンゴン大学と国際交流協定を結んだ。オーストラリアの大学との協定締結はシドニー工科大学(93年締結)に続いて2校目。本学との協定校は13カ国20校となった。今後展開される長期、短期の学生交換プログラムなどで活発な交流が期待される。

### 活発な交流に期待

協定は、ウーロンゴン大学のジェラード・サットン学長と本学の日高義博学長がそれぞれ署名した協定書を郵送で取り交わすことにより5月25日付で締結された。

ウーロンゴン大学のあるウーロンゴン市と生田キャンパスのある川崎市は姉妹都市。本学では川崎市の要請で、日本語を専攻している同大学の学生が語学研修で来日した際、討論会を開くなどの学生交流を92年から展開。その実績が今回の協定締結に結びついた。



ウーロンゴン大学のキャンパス

交流協定の内容は(1)学術目的の相互訪問(2)共同研究プログラム(3)共同研究・出版活動(4)セミナー・学術会議への参加(5)学術文献・情報の交換(6)短・長期間の学部・大学院生の交換——となっている。

### 「日本語・日本事情プログラム」受講生15人が来日



生田キャンパスの相撲道場を訪ねたウーロンゴン大学生(03年7月)

学生交換プログラムの一環として、6月19日、ウーロンゴン大生が15人来日。同大学学生向けに本学が特別に開発した「日本語・日本事情プログラム」(3週間コース)を受講する。

本学の学生がウーロンゴン大学へ留学することも今年度から可能になった。来年2月、5週間の「春期留学プログラム(英語コース)」を同大学で実施。また長期交換留学制度による1年間の留学は、来年度から実施する(派遣期間06年2月～11月)。

### ウーロンゴン大学のプロフィール



タスマン海に面した美しいウーロンゴン市に広大なキャンパスを構えるウーロンゴン大学(写真手前)

ウーロンゴン大学は1951年に創立された国立大学。人文、芸術、ビジネス、理、情報理論、スポーツ保健、法、教育、工の9学部。学生数約1万4000人。うち留学生約3500人。教員数約1600人。学事暦は秋学期(2月～6月)と春学期(7月～11月)の2学期及び、夏期特別学期(12月～2月)からなっている。

ウーロンゴン市 オーストラリア東部に位置し、シドニーから約80キロ南方にある。人口約18万。美しいビーチなど豊かな自然に恵まれた海岸沿いの町で、農業、漁業、石炭採掘等で発達。現在は、IT関連産業や観光開発などに力を入れている。



新入生ら1000人 大いに盛り上がる

## 「第38回青衿祭」

連合県人会の新入生歓迎イベント「第38回青衿祭」(実行委員長＝大楽芳恵さん・経営4)が6月4日、渋谷公会堂で行われた。新入生ら約1000人が来場し、有志によるアトラクションや「Jackson vibe」のライブで大いに盛り上がった。



フィナーレは出演者全員で「マツケンサンバ」

## 二部体育祭

### サーティーナインが3連覇

二部体育祭(山崎隆嗣実行委員長・商2)が5月29日、生田キャンパス北グラウンドで行われ、ソフトボールで汗を流した。大会には11チームが参加。熱戦の末、「サーティーナイン」の3連覇で幕を閉じた。



優勝の瞬間。メンバーがマウンドにかけ寄った。

## 司法試験第2次短答式試験

### 現役3人含む54人が合格

最難関と言われる3大国家試験の一つ、05年度(平17)司法試験第2次試験短答式試験の合格者が、6月1日法務省司法試験委員会から発表された。

今年度は本学から514人(昨年度564人)が出願したが、合格者は昨年を上回る54人(同45人)。この中には4年次生3人が含まれている(6月3日現在)。「合格者は当センターの主催する各種講座を受講して、日夜勉強に励んできた人たちで、4年次生2人は勉強団体『正法会』に所属しています」(エクステンションセンター事務課談)。過去10年をさかのぼっても合格者が50人を突破したのは初めてで、7月の論文式試験、10月の口述試験が注目される。

大学別順位でみると、本学は私立大で15位、全国の国公私大では25位(同27位)にランクアップした。全国の出願者数は45758人(同49880人)、受験者数は39415人(同43356人)と、ともに減少傾向にあるが、合格者は過去最高の7637人(同7438人)を記録していることが特徴的だ。合格者の平均年齢は30歳(同29.54歳)。最低年齢は19歳(同20歳)と若返っているが最高年齢者も69歳と健闘している。

## 《キャンパス探訪 -26-》

## 相馬勝夫先生胸像

相馬は本学創立者の一人、相馬永胤の孫。1930年(昭5)東京商科大(現一橋大)卒業と同時に本学教壇に立ち、長年保険論などを講じた。61年(昭36)に第10代専修大学学長(76年まで。その後、83年まで第7代総長)に就任した。

64年に森口忠造が理事長に就任、川島正次郎と共に「川島・相馬・森口体制」で、本学の拡充と発展に尽力した。学長在任中に経営学部を新設、商経学部を経済学部へ改称、商学部、文学部の新設と、5学部へ拡充させている。68年から76年まで専大北海道短大(前身は専大美唄農工短大)の学長も兼務した。83年、78歳で死去。

92年(平4)、校友会が委託制作した胸像は神田キャンパス1号館15階ホール「報恩の間」にある。台座に「大学の教育研究の充実発展」と、その功績をたたえる。

